『炎の中にも』（ダニエル書 3 章 13-30 節）2021.10.3.

＜はじめに＞ ダニエル書 1-4 章はバビロンのネブカドネツァル王の治世に起こった出来事です。2 章では、人が打ち建てる帝国の興亡と並行して、神の国が建て上げられ、やがて全地を治める神の計画がダニエルを通して王に明かされました。本章はそれに続く物語です。

Ⅰ　像を建てる王(1-7)

①金の像を拝め(1-7)

ネブカドネツァル王は高さ27m、幅2.7mの巨大な金の像を建て、奉献式にすべての高官を招集します。王は、諸々の楽器の音を聞いたなら、金の像をひれ伏して拝むように定め、従わない者は、即刻、火の萌える炉に投げ込むと、国中のすべての者に命じます。

②前章の夢とのつながり(2:44-49)

前章で王は巨像の夢を見、その解き明かしをダニエルから受けています。人の建てた王国も、天の神の国の前にはやがて崩れ去る予告と警告でした。それなのに、彼は金の巨像を建て、拝礼を命じます。夢と解き明かしから、王は何を受け取ったのでしょう。

③聞き方に注意しなさい(ルカ 8:18、ヤコブ 1:22)

メッセージを伝える側が、相手に届くように整えるのは当然です。聞く側も、その真意を汲み取り、それに応じられるように整える必要があります。主イエスが語られた種蒔きのたとえ(ルカ 8:4-15)は、そのヒントを与えています。「聞く耳のある者は聞きなさい」と。

Ⅱ　神の前に生きる(8-23)

①拝まない三人(8-23)

シャデラク、メシャク、アベ・デネゴもバビロン州行政官として列席しながら、拝礼しません。告発によって彼らは王の前に引き出され、王は最後のチャンスを与えますが、彼らはそれでも金の像を拝むことはしないと明言します。王は怒り、3 人を燃える炉に投げ込みます。

②誰に仕えるのか(17)

彼ら 3 人が天の神、主に仕える姿勢を変えないのはなぜでしょう。十戒の 1・2 戒を覚え、これまで祈りに応えてくださった生ける神に期待したからです。捕虜となり、異国で王に取り立てられて高位に就いた者として、他にどんな対応が考えられるでしょう。

③たとえそうでなくても(18)

自分の願い通りに聞き入れてくださる神だから仕えるのではありません。異国の王・異教の神々にまさる、すべてを支配される天の神に彼らは信頼しています。私の神は生きておられ、その御方は常に最善をなさる方と信じるなら、自らを委ね切ることができます。

Ⅲ　神は共におられる(24-30)

①炉の中の 4 人(24-30)

3 人は激しく燃える炉に縛られたまま投げ込まれます。炉の中を王が覗くと、炎の中を縄を解かれて歩いている 4 人が見えます。王は彼らを呼び出すと、彼らは無傷でした。王は彼らの神をほめたたえ、このように救い出せる神は他にいないと宣言します。

②第四の者(25、イザヤ 43:1-2)

この方は受肉前の御子なる神だと見られます。御子イエスも地上生涯で試みを受け、十字架の苦しみも甘受されました。それは試みられている者たちに慰めと希望を与え、助け出されるためです(ヘブル 2:18)。この約束が私にも与えられていると受け取りますか。

③目を天の神・主に向けよう

試練・苦しみに会うとき、聖霊は主イエス・キリストを思い起こさせてくださいます。自らが辿る道筋には主の足跡も必ずあることに気づかされます(Ⅰペテロ 2:20-25)。復活の主はそこから救い出され(Ⅱコリント 4:7-15)、脱出の道も備えられます(Ⅰコリント 10:13)。

＜おわりに＞ この世は天の神・主を知らないが故に、横暴に振舞い、服させようとします。しかしこの世で起こる事象の背後におられ、全てを治められる生ける神がおられます。この御方を見るのが信仰の眼差しです(ヘブル 11:1,27)。(H.M.)